

【お知らせ】 Business Suite16 に関するナレッジの紹介

2024年10月25日 11:00(更新)

2023年10月16日 14:00(発行)

Business Suite 16 (BS16)において複数の仕様変更がございます。Changelog で主な変更点を紹介させていただいておりますが、それ以外に影響が大きいと思われるものをご紹介します。

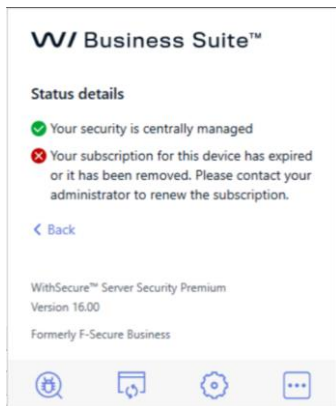
[Business Suite Policy Manager Changelog – WithSecure Community](#)

[Business Suite Client Security and Server Security Changelog – WithSecure Community](#)

※Linux Security64 はオートアップデートとなりメジャーバージョン(15. xx/16. xx)は存在しません。BS16に含まれる Policy Manager Server 16. xx へのバージョンアップによる影響はございません。

- ライセンスアセット認証機能の追加

Server Security (SS)/Client Security (CS)はライセンスアセット認証の為に Policy Manager Server (PMS)との常時接続が必要となりました。SS/CS は PMS 経由でライセンス認証を実施しそれに伴い SS/CS 用インストーラ作成時にポリシー内” **ルートドメイン**”にて「ポリシーマネージャサーバのアドレス」指定が必須となりました。ライセンス認証に失敗した端末は一定の猶予期間(現在は1ヶ月)後機能停止します。



#ポリシーマネージャサーバアドレス指定箇所



#PMS に接続できない SS/CS クライアント用にライセンス認証を3年間延長可能なスタンドアロンモードインストーラ作成が行えます。(3年後に再インストールが必要となります)

1. スタンドアロンインストーラ用にドメインを追加します。
※このドメインにはホストを追加しないでください。



2. ポリシーマネージャサーバのアドレスを 0.0.0.0 に設定します。

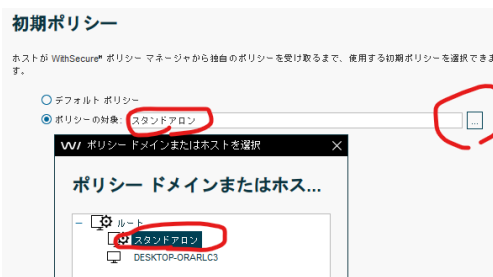
集中管理

ポリシー マネージャ サーバホストの通信設定

ポリシー マネージャ サーバのアドレス:

0.0.0.0

3. インストーラ作成時の「初期ポリシー」でスタンドアロンクライアント用ドメインを指定します。



- PolicyManager コンソールでのインストール方法

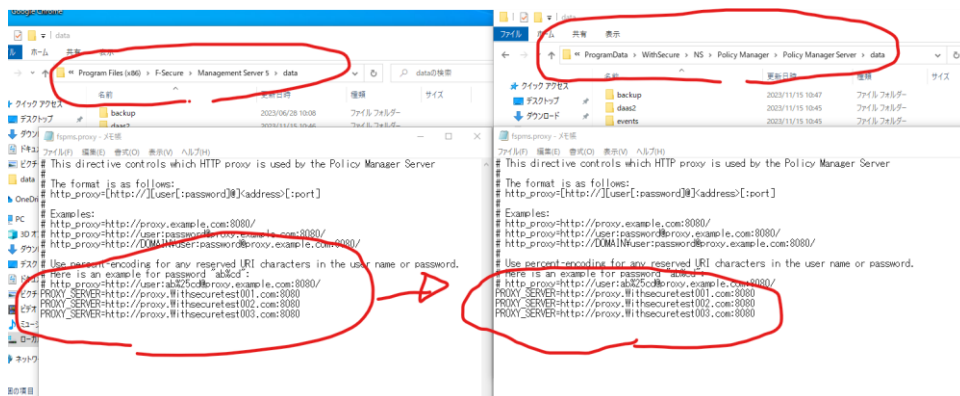
msiexec /i policy-manager.msi NOSERVER=true でのインストールが必要です。

- Policy Manager Server を HTTP プロキシ指定が必要な環境で使用する際にプロキシサーバアドレスを記述する fspms.proxy.config が新規インストール(※)では作成されません。fspms.proxy.config を生成する為にはインストール時(※)に下記オプション指定が必要となります。

msiexec /i policy-manager.msi PROXY_SERVER=http://proxy.example.com:8080

※proxy.example.com:8080 はユーザ環境に応じて変更してください。

※PMS15.xx からアップグレードインストールの場合、既存 fspms.proxy.config が自動作成されます。



※既に PolicyManager16.xx を新規インストールしている端末で fspms.proxy.config を生成する場合もこのコマンドを実行します。メンテナンスツールが起動しますがキャンセルを行っても問題ございません。

- インストールディレクトリの変更

Program files location: C:\Program Files\WithSecure\Policy Manager\

Program data location: C:\ProgramData\WithSecure\NS\Policy Manager\

Registry: HKLM\SOFTWARE\WithSecure\Policy Manager

- 通信先アドレスの変更

下記 KB/ニュースでも掲載しておりますが Withsecure ドメインへの移管が行われております。これらのアドレスへの通信許可をお願いします。

<https://community.withsecure.com/ja/kb/articles/31208-withsecureのオンプレミス製品のネットワークアドレス>

※(オフライン環境の場合)パターンファイル更新ツール(fspm-definitions-update-tool)も Policy Manager16.xx で再作成して下さい。F-seure ドメインは 2024 年年末を目標に停止される為、ツールも新しいバージョンが必要です。

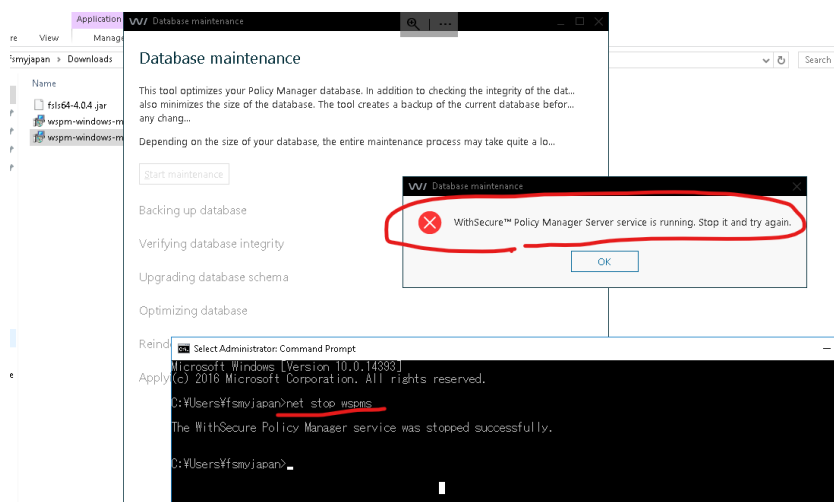
- ポリシーマネージャサーバサービスプロセス名の変更

wspms が新しいサービスプロセスとなります。

```
#net stop/start wspms
```

- アップグレードインストール時に Database Maintenance tool が稼働

メンテナンス開始前に稼働中の PMS サービスを停止する必要があります。「net stop wspms」を管理者権限で実施後、メンテナンスを実施してください。



- Policy Manager が新/旧クライアント用にそれぞれのオフラインパターンファイル更新ツールを作成 **withsecure-updates.zip**

Business Suite 16.xx 以降と Linux Security 64/Atlant(※)はこちらをご利用ください。

※コマンド” /opt/f-secure/fsbg/bin/withsecure-migrator status”の結果が「migrated」である事を確認してください。「not-performed」か「not-ready」の場合 f-secure-updates.zip を継続利用します。→[参考](#)

f-secure-updates.zip

Business Suite 15.xx 以前の製品と Linux Security 64/Atlant 旧バージョンはこちらをご利用ください。

- ウイルス定義ファイルダウンロードチャンネルの有効化

BS16 製品において新しいウイルス定義ファイルダウンロードチャンネルが有効化されました。オフライン環境

においてウイルス定義ファイルをアーカイブ作成→更新を行っている場合、PolicyManager16.xxで最新チャンネルを含んだアーカイブ作成ツール(fspm-definitions-update-tool)を作成しなおす必要がございます。

追加/有効化されたチャンネル: pinned-certificates-win "pinned-certificates-unix"

Ref: アーカイブを使用してマルウェア定義を更新する

https://www.withsecure.com/userguides/product.html#business/policy-manager/16.00/ja/task_957E20DBBA344DF3A8B1B703EA7A4F1D-16.00-ja

不明な点がある場合は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

お問合せフォーム